

# 『もはやオタクがアイドルやった方がいい』

山田凧沙（20）の推しは、顔面大優勝のアイドル、花園<sup>ひかる</sup>光（20）

だが光は失言、パフォーマンスの低さ、熱愛スキャンダル etc... によりたびたび**炎上**しており、**顔は良い**のにアイドルとして「**もったいない**」と揶揄されている

ファンとアイドル、決して交わることがないはずが凧沙と光の**身体が入れ替わった！？**

ドルオタ女子が残念系アイドルと入れ替わって、  
アイドルのてっぺんを目指す究極の推し活ストーリー

似た設定の作品が多い中、この作品だけのポイントは

- ・ 恋愛感情一切なし。オタクから推しへの一方的、絶対的な愛がテーマ（入れ替わりあるある「異性の身体にドキドキ」は無し。恋愛フラグは全て折る）
- ・ 元の身体に戻ることがゴールじゃない。入れ替わったまま最高のアイドルを目指す（やる気がない光に代わって、凧沙が頂上まで連れて行きアイドルを続けさせる）

#### 企画意図

アイドルのSNSの活用や「推し」という言葉の普及により、アイドルとファンの距離が近くなった今、推しが理想の姿と少しでもズレた言動をとると、「裏切り」と叩くファンが多いそこでこの作品では、アイドルとファンがそれぞれの人生を生きる姿を描き、

**推しとオタクの健全な関係を推奨**します

#### 企画意図を受けてのストーリー

同時期に、凧沙はアイドルの夢を諦め、光はアイドルとして華々しくデビューした。

推しのためと言いつつ、凧沙は光に自分を重ね「自分ならこうする」「アイドルならもっとこうすべき」と願望を押し付けている。

そして身体が入れ替わったのをきっかけに、凧沙はさらに光を自分の理想の姿にしようとする。

それは「推し活」を超えた不健全な関係性へと変化する。

（入れ替わりの発動条件が光の「アイドル辞めたい」と凧沙の「アイドルやりたい」の気持ちが合致した時）

**みんなの憧れであるアイドルと、推しに夢を抱くオタク（ファン）、双方の視点から描くことで、認知のズレを強調し、健全な関係へ修復していきます**

## 人物設定

### 山田凧沙 (20)

小学生の時からダンススクールに通い、アイドルを目指していたがあと一步のところまで挫折する。現在はコンサートスタッフのバイト。そんなときテレビで見た光の姿に胸を撃たれ、以来光の烈烈なファン。かけてきたお金と時間は半端ない。アイドルは高潔な存在であるべきという思想のため、光のことは大好きだが自分が恋愛関係になりたいとは思っていない。

【スターチューン】アイドル事務所「ダイヤモンド」所属の五人組男性アイドルグループ。メジャー三年目。ドーム公演を目指している。

### 花園<sup>ひかる</sup>光 (20)   メンバーカラー：シャイニングイエロー

顔が良い以外アイドルとしての長所が無い。アイドルとしてやって良いことと悪いことの区別がついておらず、失言や熱愛でたびたび炎上する。人の「押し」になることがプレッシャーで、凧沙の熱量にも引き気味。給料が良かったためアイドルをしているが、ファンからの重圧や誹謗中傷、メンバーとの対立によりアイドルを辞めたいと思っている。

### 沢田歩 (22)   メンバーカラー：ファイヤーレッド

グループの最年長でリーダー。やる気がない光を鼓舞するも、本人には響かず苦勞している。何度かデビューを逃しており、これが最後のチャンスだと意気込んでいる。

### 鈴原怜 (19)   メンバーカラー：クールブルー

冷静沈着なキャラだが、アイドル業に対して誰よりも熱意がある。そのため光には腹が立っている。アイドルとして意識が高く、女性とは一切関わりを持たないことを徹底している。

### 望月圭太 (21)   メンバーカラー：ファンタスティックピンク

あざとさを売りにしている根っからのアイドル。最高の顔面を持っているのに意識が低い光にやきもきしている。

### 別所陽介 (20)   メンバーカラー：にこにこグリーン

光の幼馴染で、ずっと同じダンススクールに通っていた。スカウトされた光のオマケで、事務所に入った。そのため光の理解者ではあるが根深いコンプレックスを抱いている。

### 豊島辰巳 (26)   スターチューンのマネージャー。少々おバカだが、仕事はできる。

### 津田沙耶香 (35)   スターチューンのチーフマネージャー。厳しいが誰よりもメンバー思いで信頼が厚い。

### 辻崎凧奈 (22)   凧沙のダンススクール時代の先輩。一度アイドルとしてデビューしたが、早々にグループが解体し引退した。

## 全体構成

### 1話「もはやオタクが最高のアイドルを目指す」

アイドルオタクの山田凧沙（20）の推しは、男性アイドルグループ「スターチューン」の花園<sup>ひかる</sup>光（20）。光は誰もが目を奪われる最高のビジュアルを持っているが、言動の意識の低さや、歌・ダンスのクオリティの低さから「残念なアイドル」と評価されている。

ある日、ライブチケットは手に入らなかったものの、物販のアルバイトとしてスターチューンのライブ会場に来た凧沙。出来心からリハーサル中のライブ会場に潜り込む。そこで機材ミスにより、ステージから飛び出した光と衝突し、二人とも気絶してしまう。そして目を覚ますと、凧沙と光の身体は入れ替わっていた。ライブ出演は見送る流れになるはずが、凧沙は光としてライブに出ると申し出る。光は反対するが、光目当てで来たファンの気持ちが痛いほどに分かる凧沙は、ステージに立つと言って聞かない。

いざ光としてステージに立った凧沙は、ファンとして見て来た光のパートを完璧にこなし、ライブを乗り切る。テンションが上がった凧沙は、光が普段はしないファンサをしまくったりと、光本人よりもファンに受けてしまう。一方光は凧沙の代わりに物販で働く。いつもより近くで、推しに心動かされているファンたちを目にし、思うところがある光。入れ替わったライブは大成功。ライブ終了後、光は元に戻るためにあれこれしてみるがうまくいかない。それどころか凧沙は、光が元の身体に戻ることを拒む。光がアイドルを辞めようとしていることを知り、身体が戻ればそのまま辞めてしまうのではないかと恐れているのだ。

自分の体験したステージの感動を凧沙は光に伝えるが、光にとってはもう感動を過ぎた慣れたものになってしまっている。そこで、凧沙は光をもっと大きなステージ、ドームに連れて行くことと約束する。ドームから、最高の景色を見せれば光は改めてアイドルでいることの感動体験ができるのではないかと考えたのだ。凧沙は光にずっとアイドルでいてもらうため、自分が光と入れ替わったまま、最高のアイドルを目指すことに。

**アイドル視点：生きる糧にされるのは重い**

**オタク視点：推しのおかげで生きている（とはいえ理想像はある）**

### 2話「アイドルのキスシーンで、需要どこ？」

ぶつかったときと同じように、またキスすれば身体が元に戻るのではないかと考えた光。キスしようとするが、推しには純潔でいてほしい凧沙は完全拒否。さらにはキスしそうな場面を光の彼女、黒田明莉（20）に見られ修羅場に。入れ替わった事情を明莉に説明するが、信じてもらえず喧嘩別れしてしまう。恋愛スキャンダルを避けたい凧沙にとっては好都合だったが、光はアイドルを辞めて普通に恋愛したい。

身体が入れ替わったまま、光に演技の仕事が入る。光として仕事を全うしようとする凧沙だったが、台本を読んで驚愕する。台本には光のキスシーンがあった。凧沙は仕事を断ろうとするが、アイドルを辞めた後俳優に転身しようとしていた光にとって、今回の仕事は逃さない。唯一入れ替わりの事情を知っているマネージャー、豊島辰巳（26）の協力の元、なんとか撮影現場に連れて来たが、凧沙はキスシーンを拒否。結局撮影はキスシーンなしで行われた。

入れ替わっているならきちんと仕事をしてほしいと言う光と、自分が望むアイドル像であってほしい凧沙は口論になる。そんな中、光に浮気されたと思い込んだ明莉は、交際していたことを自分のSNSの生配信で暴露すると言い始めた。暴露配信の一步手前で明莉を止めた凧沙は、自身のアイドルの恋愛論を語る。そこに光も駆けつけ、ファンの熱愛叩きに思いをぶつける。恋愛絶対禁止を唱えているのが光だと勘違いした明莉は、身を引くことを決意する。

光を心配し駆け付けたスターチューンのメンバー、別所陽介（20）は、光と凧沙の様子を見てあることに気が付き、二人に問う。「入れ替わってない？」

**アイドル視点：アイドルだって普通の人間、恋愛くらいしたい**

**オタク視点：普通の人間を推すわけない、恋愛くらい我慢してほしい**

### 3話「前職、アイドル」

陽介に入れ替わりを指摘された途端、身体が元に戻った凧沙と光。陽介は入れ替わりが自分の勘違いだったと納得する。何がきっかけで戻ったのかは定かではないが、光は元の身体に戻り一安心。一方凧沙は元に戻ったことで、このまま光がアイドルを辞めてしまうのではないかと思ひ、再び光と入れ替わろうとあの手この手を使うが、変わらないままだ。

無事元の身体に戻った光は、アイドルを辞めたいと事務所に相談する。豊島や、チーフマネージャー津田沙耶香（35）は大反対。芸能界史上トップレベルの美形である光を、事務所がそう簡単に手放すはずもない。豊島は光を引き留めるように、陽介に頼む。幼いころから一緒のダンススクールに通い、光も心を許している幼馴染の陽介。だが陽介は引き留める気などさらさらない。表では光と仲良くしてきたが、実は昔から光に劣等感を抱いており、同じグループですずっと辛い思いをして来ていたのだ。陽介はどれだけ努力しても、顔の良い光ばかり注目されることに耐えきれないため、光にはアイドルを辞めてもらいたいと思っている。

アイドルを辞める気である光に、沙耶香はアイドル以外の道に進む厳しさを教える。俳優業も前回のキスシーン拒否事件により仕事は来なくなった。芸能界以外の仕事も、学歴も社会経験も無い光にとっては難しい。顔が良いだけでは、外の世界は厳しいという現実を目の当たりにして、惰性でアイドルを続けると言う光に、凧沙は怒りをあらわにする。今まで身を捧げて応援していた光に裏切られたと感じ、ファンを辞めようとする。その中、光がライブ前に失踪したと豊島から連絡を受ける。もう自分には関係ないと無視しようとしたが、心よりも先に身体が動いた凧沙。

ようやく光を見つけ出した凧沙は、ライブ会場に連れ戻そうとする。すると再び、光と凧沙の身体が入れ替わった。その様子を見ていた陽介は、二人の入れ替わりを確信する。

**アイドル視点：一生アイドルでいるしかない**

**オタク視点：一生アイドルでいてほしい**

### 4話「スポットライトが当たらない人」

再び入れ替わった凧沙と光。入れ替わりの現場に居合わせた陽介は、入れ替わった二人を支えると申し出る。何が入れ替わりのトリガーになるか不明な苦境でも、陽介という味方を得た光は安堵する。だが陽介はただ光のためを思ったわけではない。この状況を上手く利用し、何としても光を辞めさせようという魂胆だ。

凧沙は再び入れ替わったことをチャンスだと思ひ、光の身体でアイドル活動に熱を入れる。ファンに寄り添ったその姿勢は人が変わったようだと、炎上により離れていたファンが戻ってきた。スターチューンのメンバー沢田歩（22）、鈴原玲（19）、望月圭太（21）も今まで足を引っ張ってきた光の変わりように、光を見直す。グループの仲も深まり、ドーム公演も夢ではなくなってきた。ただ一人、陽介は嬉しくない。光が落ちることで人気は並んだのに、凧沙の活躍でまた差が大きく開いたのだ。焦る陽介は、凧沙の躍進を止めようと、凧沙のことを探り始める。

そんな中、大型アイドルフェスに出演したスターチューン。ここで新規ファンを獲得しようと張り切る凧沙だったが、ある女性アイドルグループと挨拶をしてから様子がおかしくなる。新人マネージャーというていで行動を共にしていた光も、いつもと違う凧沙の様子を気にかける。

光にも詳細を話したがらない凧沙だったが、ステージでは完璧に光を演じてみせる。それでも凧沙を心配する光に、陽介は調べ上げた凧沙の過去を吹き込む。そこで初めて、光は凧沙が昔アイドルを目指していたことを知る。そのことは今でも凧沙には心残り、フェスに参加していたアイドルが昔同じダンススクールに通っていた子だと気づき、動揺していたのだ。入れ替わった今、凧沙は叶えられなかったアイドルという夢を疑似的に堪能しているのではないかと考えた光。推しのためと言いつつ、結局自分のためではないかと疑心暗鬼になる。

**アイドル視点：推しのためと言いつつエゴを感じる**

**オタク視点：全ては推しのため**

## 5話「マイクをステージに置いた後」

十代のとき、凧沙はアイドルを目指していた。デビューを夢見てレッスンに励んでいたが、叶わず。絶望の中、凧沙はテレビの中の光を見つけた。夢を諦めた同時期にアイドルとしてデビューした光に、自分の姿を重ね凧沙はずっと応援してきた。

光は自分のために一生懸命に活動する凧沙に、少しずつ心を許していたが凧沙の過去を知り心が揺らぐ。協力関係だったはずの二人の間に溝ができてしまう。その状況を利用して陽介は光にアイドルを辞めさせようとする。光にあることないことを吹き込み、さらに二人の仲を引き離す。

アイドル卒業を本格的に考えた光は、事務所を退所した元アイドルの先輩、上島和彦（35）に会いに行くことに。新人マネージャーの教育という名目で沙耶香に場をセッティングしてもらった光は、上島にアイドル引退後の生活のことを聞く。トップアイドルとして駆け抜けた上島は、引退後の落ち着いた生活に満足していた。後悔はないのかと問う光に、上島は衝撃の事実を打ち明ける。

一方、凧沙は自分の過去を光に知られたことに戸惑っていた。光のためとは言いつつ、自分の夢を疑似的に叶えようとしたのではないかと思いい悩む。光としてスターチューンの活動は続けるものの、身が入らない。そんな姿を見て心配したスターチューンのメンバーは、休日にみんなで遊びに行くことに。スターチューンファンの凧沙は、メンバーの裏の顔を見てしまうのではないかと乗り気ではなかったが、本気で光を心配する優しさに心が軽くなる。いつしかファンではなく、同じステージに立つ仲間としてスターチューンのメンバーを見るようになった凧沙。全員の目標であるドーム公演を実現させるため、光として活動することを改めて決意する。

その矢先、光は元に戻る可能性を見つけていた。

**アイドル視点：自分の夢を見てほしい**

**オタク視点：アイドルの夢を見させてほしい**

## 6話「ステージ裏のアイドル」

光が上島から聞いたこと、それは上島も入れ替わりを経験していたということだった。現役アイドル時代、あまり目立った活動ができていなかった上島がトップアイドルになったのは、入れ替わりが要因だったのだ。上島は光と同じように、当時のファンと入れ替わり、そのファンが上島としてステージに立つことで、大きな人気を得たのだという。元の身体に戻り、上島はアイドルを引退。現在はそのファンと結婚し、平穩

な生活を送っていた。上島と同じことをすれば元の身体に戻れるのではないかと、希望を見つけた光。ファンと入れ替わったときの上島が成した功績を、凧沙にも達成してもらおうとする。本格的にマネージャーとしてスターチューンを支えることになった。

上島が元の身体に戻る前に達成したのは、ドーム公演。光は、光の身体で凧沙にドームを目指してもらうことに。早く元の身体に戻り、アイドルを辞めたいという気持ちは隠し、凧沙との関係を修復する。そんな状況に焦った陽介は、元の身体に戻る戻らない関係なく、光を失墜させることに。光と凧沙のツーショットを匿名で暴露系配信者に売ってしまう。

アイドルとマネージャーの恋愛というゴシップは、ファンの間で大炎上。凧沙と光は必死に否定するが、メンバーからも信用を失ってしまう。グループ存続の危機の中、沙耶香はツーショットを売った人物の方に目を付けていた。身内のやったことだと勘づき、ついに犯人を特定。メンバーの前で陽介を追い詰める。自暴自棄になった陽介は、今まで胸に秘めていた恨みつらみを光にぶつける。親友の本当の思いにショックを受ける光。

**アイドル視点：メンバーと仲良くできないときもある**

**オタク視点：メンバー仲良くしてほしい**

## 7話「目の前にいるということ、隣にいるということ」

恋愛スキャンダルの沈静のため、しばらくマネージャー業から離れることになった光。陽介への信頼が厚かった分、裏切りに大きく動揺していた。それは他のメンバーも同じ。ドームという目標に向け一致団結していたはずが、バラバラになってしまう。

現状を何とかしようと、凧沙は陽介と話し合うことにした。「自分は光のオマケ」だと弱音を吐く陽介を、凧沙はスターチューンの聖地に連れ出す。結成日にメンバーで集まったファミレスは、ファンの間では聖地と呼ばれ、ファンが多く集う。変装しながらファンの様子を見た陽介は、自分を推す熱意を目の当たりにして、光の陰に埋もれていたという考えを改める。

塞ぎ込んでいた光だが、再び陽介と向き合う。光がアイドルを続けられたのは、陽介が隣にいたからだ。絆を取り戻した光と陽介。そのとき、光と凧沙の身体が元に戻る。光は他のメンバーのためにも、ドーム公演が叶うまではアイドルを続けると表明する。そのために、凧沙にはマネージャーとしてこれからもそばにいてほしいと伝えるが、凧沙は光の前から去ってしまう。

**アイドル視点：隣にいるメンバーのおかげで頑張れる**

**オタク視点：目の前に立つアイドルのおかげで頑張れる**

## 8話「推しがいなくなった人生」

一連の騒動は自分のせいだと感じた凧沙は、光の前からいなくなる。ただのファンとアイドルと言う関係に戻ろうとしたが、光の姿を見ることも辛くなり、今まで集めたグッズを捨ててしまう。新たな推しを見つけようと、手あたり次第アイドルのライブに行くが、なかなか推しは見つけれない。

スターチューンはようやくドーム公演の開催が決定する。だが光がまた、大失言をしてしまう。「俺がいなくなった人生を生きてほしい」。その光の言葉は、ファンにとっては突き放されたように聞こえ、誹謗中傷が集まる。だが凧沙には、不器用ながらもファンのことを考えた光の真意が伝わった。光からの連絡も無視していたが、ようやく応え光に会いに行く凧沙。そこで光は、凧沙にアイドルオーディションへの参加を進める。自分の夢を追ってほしいと、凧沙の背中を押す。

自分の人生と向き合う覚悟をした凧沙は、アイドルオーディションに向かう。だが結果は不合格。審査員の心ない言葉に、凧沙は絶望する。光に合わせる顔がないと落ち込む凧沙だったが、光から助けを求める連絡が。急いで光の元に向かうと、そこには光がアイドルになり、アイドルを辞めたい大きな理由、光の母親、花園桃実（40）がいた。

**アイドル視点：自分がいなくても生きてほしい**  
**オタク視点：推しがいなくちゃ生きていけない**

## 9話「アイドルでいる理由」

光の元に駆け付けた凧沙。すると二人は入れ替わってしまう。桃実は光の前に現れた凧沙を、中身は息子とは知らずに罵倒する。桃実は光の恋愛スキャンダルを激しく拒否していた。中身は凧沙の息子に、桃実はアイドルを続けるよう叱責する。凧沙は桃実の話を知っているうちに、光が抱えていた問題を知ることになる。若い頃アイドル研究生として活動していた桃実は、光を妊娠したことをきっかけに志半ばで引退。光に自分の夢を叶えさせようと、小さい時からレッスンを強制してきた。母の夢を追わされてきた光は、嫌気がさしアイドルを辞めたいと思うようになったのだ。

凧沙は自分の気持ちを押し殺し、光にアイドルを辞めさせる決意をする。上島のように元の身体に戻るには、ドーム公演の成功がカギだと考えた二人。他のメンバーとともに最高のステージを作り出す準備を始める。

陽介は独自に入れ替わりの件について調べていた。そこで芸能神社の書物から、ヒントを見つける。

**アイドル視点：アイドルでいる理由はいろいろある**  
**オタク視点：アイドルでいる理由はファンのためであってほしい**

## 10話「最高の景色」

ついに迎えたドーム公演。会場は大盛況。一面に広がるペンライトの光に、思わず涙を流す凧沙。光も、ステージ袖からその景色を目の当たりにし、圧倒される。ドーム公演は大成功。そして凧沙と光は元に戻るかと思いきや一向に戻る気配がない。困惑する二人に、陽介は入れ替わりの発動条件について話す。陽介の調べでは、芸能神社の神力により、二人の「アイドル辞めたい」「アイドルになりたい」という気持ちが重なったときに入れ替わりが起こると考えられる。ドームからの景色を見て、凧沙は光にこの場所を返したいと思った。だが、光はもう一度アイドルになりたいとは思えなかった。

凧沙は光に身体を返すために試行錯誤するが、光は桃実からのプレッシャーもあり、アイドルに戻りたいとは思えなかった。そこで凧沙は光のフリをして桃実と向き合う。凧沙が代弁した光の思いを聞いた桃実は、自分の夢で息子を縛ることを辞める。長年の母との確執を取り除いてくれた凧沙に感謝する光だったが、まだ心の底から戻りたいと思えずにいた。そこで凧沙は、光を始めて見たライブハウスに光を連れて行く。光を推していたときの思い出を話す凧沙。そして光のファンを降りることを伝える。「俺がいなくなった人生を生きてほしい」、光の言葉を行動に移すことにしたのだ。ステージを降りることも、自分の口から伝えてほしいと言われると、光と凧沙は元の身体に戻る。

その後、地下アイドルとして駆けだし中の凧沙。引退した光は、スマホで凧沙の姿を見る。アイドルとファン、交わらない関係に戻った。

**アイドル視点：ファンへ「今まで応援してくれてありがとう」**  
**オタク視点：アイドルへ「今まで応援させてくれてありがとう」**

「もはやオタクがアイドルやった方がいい」

1話

仲村ゆうな

○テレビ局・スタジオ

音楽番組の収録中。

司会者「さ、続いては今大注目のアイドルグループスターチューンです」

カメラに抜かれる沢田歩（22）・鈴原

怜（19）・望月圭太（21）・別所陽介

（20）。

司会者「メンバーの花園光くん」

花園光<sup>ひかる</sup>（20）がカメラに抜かれると、

観客席からひと際大きな歓声上がる。

光「はい」

司会者「国民的イケメンランキング一位、お

めでとうございます！」

司会者、光が載った雑誌を広げる。

司会者「アイドル誌キューピッドの読者投票でぶっちぎりの一位だったんだってね！」

司会者、光に花束を渡す。

司会者「どうですか、今のお気持ちは」

光「え、別に花はいらないかな」

○ SNS 画面

光の動画を引用した多数の投稿。

女の声 「失礼すぎる！」

男の声 「せっかく祝ってもらったのに！」

○ 出版社・会議室

写真を撮られながら取材を受けている

光。

カメラマン 「（ぼそつと）かっこいい……」

記者 「スターチューンは魅力的な楽曲も人気の理由ですが、普段歌詞はどのように覚えているんですか？」

光 「覚えてないですね。長いんで」

○ SNS 画面

光のインタビュー記事が引用された多数の投稿。

女の声 「プロ意識が無さすぎる！」

女の声 「だからよく歌詞間違えてんだろ！」

○ マンション・リビング

ソファに座っている光、スマホで自撮りする。

○ SNS画面

光の自撮り写真が投稿される。

瞬時に多数の返信がつく。

女の声 「女の手が映り込んでる！」

光の自撮り写真の端が拡大されると、

ネイルをした女の手が映り込んでいる。

女の声 「アイドルとしての意識が低すぎ」

女の声 「これはダメだってオタクでも分かる」

女の声 「残念なアイドル」

○ アリーナ・ロビー

スマホを見ながら大きいため息をつく

山田凧沙（20）。

辻村凧奈（22）、段ボール箱を持ってくる。

凧奈 「クソデカため息。どうした、せっかく

推しの現場に入れたのに」

凜奈、段ボールの中から光の顔がプリントされたうちわを取り出す。

凚沙「バイトで入っても仕方ないんだよ。て  
いなか聞いて」

凜奈「また炎上した？ よく燃えるねー、凚沙の推しは」

凚沙「今回は女が映り込んだ写真を公式SN  
Sに投稿したって」

凜奈「アホすぎる。よくそんなの推してるね」  
凚沙「だって」

凜奈「だって？」  
凚沙「死ぬほど顔が良い」

凚沙、光のうちわを見つめる。

凜奈「顔だけはね。やっぱトップになるには  
顔だけじゃねえ。光は顔以外ポンコツすぎ」

凚沙「こんなにお顔が天才なのにね。もはや  
私の方がうまくアイドルできるよ。もった  
いない。……ん？」

凚沙、うちわをじっと見つめる。

凧沙「ちよっとこれ破けてない？ ほら端っ

このとこ」

凧奈「ほんとだ」

凧沙「ちよっと牧野さんに言ってくる」

○同・廊下

うちわを持って歩いている凧沙。

ふと会場への入口を見ると、隙間から

演出照明の光が漏れている。

凧沙、周囲を見渡す。

こそそそと入口に向かう。

○同・会場内

ライブのリハーサルが行われている。

凧沙、会場を見渡す。

派手な装飾や照明がついている会場内。

凧沙「いいな……」

スタッフの声「（マイクを通して）はい、そ

こで光出て来る」

凧沙「え」

光、凧沙のすぐ横のステージからポツ  
プアップで飛び出る。

凧沙、ステージの方を見ると、飛び出  
て来た空中の光と目が合う。

見つめ合う凧沙と光。

光、着地するが足がもつれる。

光「うわ」

ステージから落ちそうになる光。

凧沙「光くん！」

凧沙、落下しそうな光に駆け寄る。

○ 同・医務室

目を閉じている中、周囲の音が聞こえ  
てくる。

スタッフの声「ステージから落ちたところで  
ぶつかって」

スタッフの声「今日は？ 出れるの？」

凧沙（M）「何？ 何があったの？ 光く  
ん？ 光くんは！」

目を開けると、寝転んだ視点から天井

が見える。

スタッフ「（顔を覗き込んで）光！」

光の声「え？」

起き上がり、姿見に映ったのは光の姿。

鏡の中で自分の顔を触る光。

光（凧沙）「わ、かっこいい……。ん？」

隣のベッドから凧沙（光）が起き上がる。  
る。

凧沙（光）、横を向き、光（凧沙）と

目が合う。

凧沙（光）「俺……？」

光（凧沙）「私……？」

光（凧沙）・凧沙（光）「えー！」

× × ×

横並びのベッドで寝転んでいる凧沙

（光）と光（凧沙）の姿。

スタッフ「じゃあしばらく安静にしてください

さいね」

スタッフ、ベッド周りのカーテンを閉め出て行く。

凧沙（光）・光（凧沙）、顔を横に向けて見つめ合う。

凧沙（光）「これって」

光（凧沙）「入れ替わってるってこと、ですね」

光（凧沙）、起き上がり凧沙（光）の顔を覗き込む。

光（凧沙）「光くん！ ケガはない？ 大丈夫？ 光くんにもしものことがあったら！」

凧沙（光）「いや今は俺の身体、そっちだし」

光（凧沙）「あ、ああ……。そっか」

光（凧沙）、身体を見まわして、

光（凧沙）「ケガは……。わあ、お肌きれい。っ痛。（指で唇に触れ）唇切れてる？」

凧沙（光）「……そういえばぶつかったとき」

× × ×

（フラッシュ）

空中から落ちて来る光、真下にいた風沙と顔が近づく。

× × ×

光（風沙）「それって……」

風沙（光）「もう一回キスしたら元に戻るかも」

風沙（光）、光（風沙）の頬に手を添えて顔を近づける。

光（風沙）「ダメー！」

光（風沙）、風沙（光）を突き飛ばす。

風沙（光）「うわ」

光（風沙）「ごめんなさい！ あ、私の身体か」

風沙（光）「キスなんて嫌だろうけど、戻るには」

光（風沙）「嫌なわけなくないですか！ 推しですよー！」

風沙（光）「え？」

光（凧沙） 「あの、申し遅れましたが私光く  
んのオタクをやっておりまして」

凧沙（光） 「オタク？」

光（凧沙） 「あ、えっとファンってことです」

凧沙（光） 「あ、そうなんだ。どうも……。

じゃあ」

凧沙（光）、光（凧沙）に顔を近づけ  
る。

光（凧沙） 「ダメー！」

光（凧沙）、凧沙（光）を突き飛ばす。

凧沙（光） 「何で？ 俺のこと好きなんでし  
よ？」

光（凧沙） 「リアコではないんで！」

凧沙（光） 「リア、え？」

光（凧沙） 「光くんのこと大好きですけど、  
リアルで恋愛関係になりたい系のオタクじ  
やないんで！ あくまで崇め奉ってたい系  
のオタクやってるんで！」

凧沙（光） 「よく分かんないけど、キスした  
くないってこと？」

光（凧沙）「そもそもアイドルがキスなんて  
しちやいけくないですか！」

凧沙（光）「いや普通にしますけど」

光（凧沙）「（手で耳を塞いで）わー！」

沙耶香の声「光ー？ 入るよー」

津田沙耶香（35）、入って来る。

沙耶香「光？ 大丈夫？」

凧沙（光）「沙耶香さん！」

光（凧沙）「沙耶香さん？ うわー！ 沙耶

香さんだ！ 結成当初からスタチュを支え

た名物マネージャー、沙耶香さんだ！ い

つもありがとうございます」

沙耶香「何改まって。頭ぶつけておかしくな  
った？」

凧沙（光）「そう！ そうなんです！ 俺ら

ぶつかって中身が入れ替わって！」

沙耶香「え？」

凧沙（光）「俺、光です！」

凧沙（光）、光（凧沙）を指さして、

光（凧沙）「こっち、見た目は俺ですけど中

身は違くって」

沙耶香、凧沙（光）と光（凧沙）を交互に見る。

沙耶香、光（凧沙）の頭を掴み、凧沙

（光）に向かって下げさせる。

沙耶香「ごめんなさいね、うちのタレントが  
変なことに付き合わせちゃって」

凧沙（光）「いや沙耶香さん」

沙耶香「光、動けるならとりあえず楽屋来て」

光（凧沙）「あの」

沙耶香「では失礼します」

沙耶香、光（凧沙）を引っ張って出て  
行く。

光（凧沙）「光くんー！」

凧沙（光）「待って！」

○同・廊下

沙耶香、光（凧沙）の腕を引きズンズ  
ン歩いていく。

沙耶香「漫画じゃないんだから。もっとまと

もな嘘付けないの？」

光（凧沙）「あの私たち本当に入れ替わって」  
沙耶香「あんたさあ、真剣にやらないと他のメンバーに示しつかないよ」

凧沙（光）、沙耶香たちを追いかけて来る。

警備員、凧沙（光）に気づいて、  
警備員「ちよっと。パスないとこっち入れませんよ」

警備員、凧沙（光）を止める。

凧沙（光）「違うんです。俺は」

○同・楽屋

沙耶香・光（凧沙）、入って来る。

歩・怜・圭太・陽介、駆け寄って来る。

歩「大丈夫？」

凧沙（M）「ファイヤーレッド担当、情熱で引っ張る最年長、歩くん！」

怜「心配させやがって」

凧沙（M）「クールブルー担当、俺様胸キュ

ンメーカー、怜様！」

圭太「顔は傷ついてないね。よかった」

凧沙（M）「ファントステイクピンク担当、

あざと番長、圭太きゅん！」

陽介「水飲む？」

凧沙（M）「にこにこグリーン担当、癒しし

か勝たん、陽介くん！」

光（凧沙）「視界が豪華すぎ……」

陽介「光？」

光（凧沙）「（ハツとして）あ、あの私」

沙耶香「脳震盪とかもないし大丈夫そうなん

だけど、まあ大事を取って光は出ないって

いうのでもいいかなって」

光（凧沙）「え」

沙耶香「出るの？ 出れるの？ 光」

一同、光（凧沙）を見る。

光（凧沙）、鏡を見る。

困り顔の光の姿が鏡に映っている。

光（凧沙）「いやあ……」

沙耶香「うん、光は休みで」

歩「そうですね、仕方ない」

圭太「じゃあ光のパート僕やる」

怜「ハピサマの時は俺がした方がよくない？」

光（凧沙）、テーブルを見るとグッズ

のうちわが置いてある。

見つめ、拳をぎゅっと握りしめる。

沙耶香「フォーメーションは」

光（凧沙）「――あの！」

光（凧沙）を見る一同。

光（凧沙）「私、出ます！」

歩「身体は大丈夫なの？」

光（凧沙）「はい！ あ、これ衣装ですかね。

着替えます」

光（凧沙）、衣装を持ち仕切りカーテ

ンの奥に入る。

凧沙（光）、カーテンの中に入って来

る。

光（凧沙）「光くー」

凧沙（光）「しっ！（小声で）あんた何言

ってるの？」

光（凧沙） 「え？」

凧沙（光） 「ライブ出るって？」

光（凧沙） 「はい。あの、着替えたいんです  
けど光くん着替えさせてくれませんか？」

凧沙（光） 「はい？」

光（凧沙） 「光くんの裸見るわけにいかなん  
で」

凧沙（光） 「いや別に見ていいけど」

光（凧沙） 「見たくありません！」

凧沙（光） 「ライブの時脱ぐ演出あると盛り  
上がってるじゃん」

光（凧沙） 「あ、オタクは光くんの裸に歓喜  
してるんじゃないかって盛り上げようと言う心  
意気にぶち上がってるだけです」

凧沙（光） 「そうなの？」

光（凧沙） 「むしろお腹冷えるんで着てもら  
った方がいいです」

歩の声 「光ー？」

光（凧沙） 「早く着替えなきゃ！ 光くん、  
お願いします」

光（凧沙）、来ているTシャツの裾を

凧沙（光）に掴ませる。

凧沙（光）「まじで出る気？」

陽介「光？ 大丈夫？」

陽介・歩・圭太・怜、カーテンを開ける。

Tシャツを脱がそうとしている凧沙

（光）・脱がされそうになっている光

（凧沙）の姿。

圭太「新しい彼女？」

光（凧沙）「いえ！ ただのオタクです！」

○同・ロビー

警備員に連れられた凧沙（光）、歩いてくる。

牧野忠（ち）、駆けてくる。

牧野「うちのスタッフがご迷惑おかけしました」

警備員「お願いしますね」

牧野「大丈夫？ ケガの次は楽屋侵入って：

…。 凧沙ちゃんらしくないね」

凧沙（光） 「まあ、それは…」

牧野 「無理しないで早退してもいいんだよ？」

凧沙（光） 「いや、大丈夫です。（ぼそっと）

どこに帰るかも分かんないし」

牧野 「まあうちも凧沙ちゃんいてくれたら助

かるけど」

凧奈、駆け寄って来る。

凧奈 「凧沙！ 大丈夫？」

凧沙（光） 「凧沙…。あ、はい。大丈夫です」

牧野 「早退しなくて大丈夫だって言うからさ」

凧奈 「えー、ほんとに？」

牧野 「まあなんかあったら呼んで」

凧奈 「はい」

牧野、歩いていく。

凧奈 「具合悪くなったら言うんだよ？」

凧沙（光） 「はい」

凧奈 「じゃそろそろ始まるから準備しよ」

凧沙（光） 「あの、えっと…」

○同・楽屋（夜）

衣装に着替えた光（凧沙）、鏡の前に立っている。

光（凧沙）「ビジュ大爆発……」

圭太「ほんとうに出すの？」

沙耶香「本人が出るって言うてんだから」

光（凧沙）「頑張ります。光くんのパートもフリも全部入ってるんで！」

怜「当たり前だろ」

光（凧沙）「あ」

圭太「またクオリティ低いつて炎上されるよ  
り休んでもらった方がいいんだけど」

歩「圭太、言い方」

怜「確かに。ファンもボロボロのステージ見るよりは」

光（凧沙）「推しなんているだけで大優勝な  
んですよ！」

一同、驚いて光（凧沙）を見る。

光（凧沙）「今日まで頑張って生きて来たの

に、いざ来たら光くんがいないなんて辛すぎます！」

怜「別にまた来ればよくない？」

光（凧沙）「チケットはそうそう当たらないんです！ オタクにまたなんてないんです！」

光（凧沙）、大きく息を吸って、

光（凧沙）「ファンのために、光くんはステージに立たないといけないんです！」

陽介「……光がそんなこと言うなんて」

歩「ファンのこと考えられるんだ」

圭太「光さー、どうしちゃったの」

圭太、光（凧沙）を見る。

圭太「急にやる気出しちゃって。アイドル辞めるんじゃないかったの？」

光（凧沙）「え」

○同・入口前（夜）

多くの女性ファンが入場してくる。

○同・ロビー（夜）

グッズを買う人でごった返している。

凧沙（光）・凧奈、物販スタッフとして働いている。

女「怜くんのうちわ三枚ください」

凧沙（光）「うちわ三枚……」

凧沙（光）、たどたどしくタブレットを操作する。

凧沙（光）「やば、違うか」

凧奈「やっぱり調子悪いんじゃない？ 大丈夫？」

凧奈、代わりに操作する。

凧奈「会計とか私やるから、凧沙は商品だけ持ってこれる？」

凧沙（光）「すみません……」

凧奈「お支払いカードですねー」

凧沙（光）、段ボールからうちわを取り出す。

凧沙（光）「（ぼそっと）やっぱり何もできないいな、俺」

凜奈、凧沙（光）からうちわを受け取り女に渡す。

凜奈「ありがとうございますー。次の方どうぞー」

小学生くらいの女の子、レジの前に来る。

女の子「光くんのうちわと、ペンライトと。タオルとマグカップとキーホルダーと、あとポーチと光くんのアクスタください」

凧沙（光）「そんなに？」

女の子「この日のためにお小遣い貯めたんだもん！」

凧沙（光）、周囲を見渡す。  
たくさんのグッズを購入しているファンたち。

女の子「いやでもこれで光くんがおいしいもの食べれると思ったら」

女の子「タダみたいなもの」

女の子「このために働いてきたんだもんね」

凜奈、商品を入れた袋を女の子に渡す。

凜奈「ありがとうございます。楽しんでね」

女の子、袋を受け取り笑顔になる。

女の子「ありがとう！」

凧沙（光）、レジを見る。

中には札束が多数入っている。

○同・舞台裏（夜）

スタッフの声「配置オツケーです！」

光（凧沙）、鏡を見つめている。

光（凧沙）「辞めちゃうの？ 光くん……」

陽介、光（凧沙）の隣に来る。

陽介「無理しないでね」

光（凧沙）「あ、ありがとう」

陽介「……いろいろ」

陽介、光（凧沙）を見て、

陽介「光がアイドルでいることに苦しんでる

のは、見てれば分かるから」

光（凧沙）「苦しんでる？」

陽介「もともと光はアイドル向いてる性格じゃないし。流されるままデビューしちゃっ

たでしょ？ そしたら炎上続きで。残念な  
アイドルなんて言われちゃって」

光（凧沙）「ああ……」

陽介「アイドルにならなかった方が幸せだったんじゃないかって思うよ」

陽介、光（凧沙）の肩を叩く。

陽介「僕も、光とステージから最高の景色を見たかったけど、無理には引き留めないから」

陽介、マイクを持って歩いていく。

光（凧沙）、マイクを手に持ち見つめる。

観客の声「光くん！」

観客の声「スターチューン！ スターチューン！」

○同・ロビー（夜）

凧奈、弁当を二つ持ってくる。

凧奈「お疲れー」

凧奈、周囲を見渡す。

凜奈「凧沙？」

○同・会場内（夜）

「スターチューン」コールをする観客。

凧沙（光）、こそこそ入って来る。

照明が落ちる。

大きな歓声上がる。

ビクツとする凧沙（光）。

歩の声「今日は一緒に盛り上がって行こう

ー！」

イントロが流れる。

歩、ポップアップでステージ上に出て

来る。

怜・圭太、続けてポップアップでステ

ージ上に出て来る。

○同・舞台裏（夜）

光（凧沙）、深く息を吐く。

スタッフ「行きます」

光（凧沙）、顔を上げる。

○同・会場内（夜）

陽介、ポップアップでステージ上に出て来る。

凧沙（光）、眉をひそめてステージを見る。

光（凧沙）、ポップアップでステージ上に出て来る。

光（凧沙）の目の前には無数の黄色いペンライトの光。

大きな歓声が上がる。

光（凧沙）「うわあ……」

圭太「最高のライブにしようね！」

怜「俺たちについてこい！」

陽介「一緒に楽しもー！」

光（凧沙）、マイクを強く握る。

光（凧沙）「——みんな、愛してるよ！」

特段大きな歓声上がる。

凧沙（光）「はあ？」

女1「やばい！今日の光！」

女2 「普段そんなこと言わないよね！ 何今

日！ オタク殺しに来てる？」

パフォーマンスするメンバーたち。

光（凧沙）、キレキレで踊る。

凧沙（光） 「ほんとにできてる……」

凧沙（光）、周囲を見渡す。

笑顔でステージを見る観客。

中には泣いている女性客もいる。

楽しそうにうちわとペンライトを振る

女の子。

凧沙（光）、ステージの光（凧沙）を

見つめる。

笑顔でパフォーマンスする光（凧沙）。

『手を振って』『投げキスして』と書

かれたうちわにも応えて反応する。

陽介、歌いながら光（凧沙）の方を気にする。

○ 同・ロビー（夜）

会場から出て来る観客たち。

女の声「今日光くんファンサしてくれた！」

女の声「できるんだね！」

凧沙（光）、グッズを整理しながら観

客たちを眺める。

凧奈「凧沙。さっき会場入ってたんでしょ。

ダメだよー。物販チームは会場入っちゃい

けないことになってんだから」

凧沙（光）「すみません」

凧奈「で、どうだった？」

凧沙（光）「あー、まあなんとかあったかなって  
なってる」

凧奈「あは、上から」

凧沙（光）「いやまあ」

凧奈「……凧沙が言ったことさ、あながち

間違っていないと思うよ」

凧沙（光）「何て言っていました？」

凧奈「私の方がうまくやれるって」

凧沙（光）「そんなこと言ってたんだ……」

凧奈「凧沙、まだ二十歳でしょ？」

凧沙（光）「ああ、そうなん、ですかね？」

凜奈「だから、まだ全然進める道はあると思  
うよ」

凜沙（光）「えっと？」

凜奈「なんてね。ごめんごめん。私が口出す  
ことじゃなかった！ そっちの箱、もうト  
ラック運んじやってくれる？」

凜沙（光）「あ、はい」

○同・廊下（夜）

凜沙（光）、段ボールを積んだ台車を  
押して歩く。

光（凜沙）が楽屋に入ろうとするのが  
見える。

凜沙（光）「あ」

凜沙（光）、光（凜沙）に駆け寄る。

凜沙（光）「ねえ！」

光（凜沙）、気づいて、

光（凜沙）「あ！ 光くん！」

光（凜沙）、にこにこ顔で凜沙（光）  
に駆け寄る。

光（凧沙） 「なかなかうまくできたんじゃないですかね。実は私歌と踊りには多少心得が」

凧沙（光） 「いややり過ぎ」

光（凧沙） 「え」

凧沙（光） 「俺あんな煽りしないし」

光（凧沙） 「あ、ごめんなさい。なんかテンション上がったちゃって」

凧沙（光） 「ファンサも」

光（凧沙） 「あ、そっか。普段光くんしないですよね」

凧沙（光） 「だってあんな小っちゃい文字いちいち見てらんくない？」

光（凧沙） 「オタクは規定内で色とかフォントとか死ぬほど研究してるんですよ！ そんなの、応えてあげなきゃかわいそうじゃないですか！」

凧沙（光） 「（ため息をついて）まあいいや」

凧沙（光） 、周囲を見渡す。

凧沙（光） 「こっち来て」

○同・会場内

がらんとした会場内。

光（凧沙）、ステージから会場を見渡す。

光（凧沙）「やっぱり、すごい……」

凧沙（光）、ステージ下に来る。

光（凧沙）「あ、光くん」

凧沙（光）「そっから飛び降りてみて」

光（凧沙）「え！」

凧沙（光）「また同じ感じでぶつかれば元に戻るかも」

光（凧沙）「ここから？」

光（凧沙）、ステージ下を見る。

光（凧沙）「うう……」

凧沙（光）「怖いだろうけど、元に戻るためだから」

光（凧沙）「元に……」

光（凧）、じりじりステージ端に足を進める。

凧沙（光）、光（凧沙）を見つめる。

光（凧沙）「――やっぱ無理！」

光（凧沙）、しやがみ込む。

スタッフ、入って来て、

スタッフ「すみませーん、解体始まります！

危ないんで出てください」

凧沙（光）、ため息をつく。

○同・廊下（夜）

光（凧沙）「ごめんなさい」

凧沙（光）「……まあ、もう一回ぶつかつた

ところで元に戻れるとは限らないし」

光（凧沙）「あの、光くん」

沙耶香「あ！ いた！ 光！」

沙耶香、光（凧沙）に駆け寄る。

沙耶香「あれ、また光が何かご迷惑を」

光（凧沙）「そんな迷惑なんて」

沙耶香「あんたいい加減にしなさいよ」

凧沙（光）「あの沙耶香さん、俺ら本当に」

スタッフの声「沙耶香さーん！」

沙耶香 「はーい。じゃ、光。早くシャワー浴びて帰る支度しなさい」

沙耶香、歩いていく。

光（凧沙） 「シャ、シャワー？」

凧沙（光） 「今後のことはあとで考えよう。とりあえずシャワー浴びてきて」

光（凧沙） 「無理です！ 光くんの裸なんて」

凧沙（光） 「はいはい。じゃあ俺が洗えばいい？」

光（凧沙） 「え」

凧沙（光） 「一緒に入って」

凧沙（光）、光（凧沙）の額の汗を指で拭う。

光（凧沙）、凧沙（光）の手を振り払って、

光（凧沙） 「近い！ 離れて！」

凧沙（光） 「はあ？」

光（凧沙） 「オタクとは一定の距離を保たないといけないんですよ！ だから入らないです！」

凧沙（光） 「なんで。汗かいたし汚いでしょ」

光（凧沙） 「汚くなんかありません！ 光くん

の汗は香水です！」

凧沙（光） 「いや普通に臭いよ」

光（凧沙） 「（ハツとして）そういうえば、光

くんはトイレとか……」

凧沙（光） 「さっき行ったけど」

光（凧沙） 「行ったんですか！」

凧沙（光） 「生理現象だし、行かないで漏ら

す方が悪いかなって」

光（凧沙）、頭を抱える。

凧沙（光） 「あ、ごめんなさい！ あの、あ

んま見ずにやったから！」

光（凧沙） 「いや、あの日光くんに汚いもの

を見せてしまった……」

凧沙（光） 「別に見慣れてるし」

光（凧沙） 「（手で耳を塞いで）わー！」

凧沙（光） 「じゃあもうシャワーはいいから

支度だけして来てくれる？ 俺また楽屋入

ったら追い出されるし」

光（凧沙） 「分かりました」

凧沙（光） 「赤いトートだけ、そのまま持つてくればいいから」

光（凧沙） 「はい！」

光（凧沙） 、楽屋に駆けて行く。

○同・楽屋（夜）

光（凧沙） 、入って来る。

光（凧沙） 「えっと光くんの荷物は……」

歩 「あれ光。シャワーは？」

光（凧沙） 「普段カメラに映さないとこ見るわけにいかないんで！」

歩 「うん？」

光（凧沙） 「あった」

光（凧沙） 、赤いトートバッグを手に持つ。

光（凧沙） 「じゃあ、あの、帰ります」

怜 「打ち上げは？」

光（凧沙） 「今日はちよっと」

圭太 「彼女のどこ？」

光（凧沙）、膝から崩れ落ちる。

陽介「光！ 大丈夫？」

光（凧沙）「やっぱり光くん、彼女いますよ

ねー……」

圭太「何今さら」

光（凧沙）「いやあの言葉の節々から感じ取  
れてはいたんですけど、いざ核心に変わる  
としんどさが」

怜「やっぱり今日光おかしくない？」

陽介「ゆっくり休んで。しんどかったら病院  
行くんだよ」

光（凧沙）「は、はい……。失礼します」

光（凧沙）、ヨロヨロと出て行く。

歩「大丈夫かな」

圭太「慣れないファンサして疲れたんじゃな  
い？」

○同・裏口（夜）

ミニバンが停まる。

運転席の豊島辰巳（26）、窓を開けて、

豊島「お待たせしました」

凧沙（光）・光（凧沙）、バンに乗り込む。

○車内（夜）

豊島、凧沙（光）を見て、

豊島「あれ、いつもの彼女さんじゃない」

光（凧沙）「うっ……」

光（凧沙）、胸を抑える。

豊島「ご自宅でいいですかね」

凧沙（光）「ちょっと寄りたいたところが」

光（凧沙）「え？」

○神社・参道（夜）

凧沙（光）・光（凧沙）、歩いてくる。

光（凧沙）「ここ、知ってます」

凧沙（光）「ほんと？　ここ芸能事の神様だ

からって前に先輩に教えてもらったんだよね」

光（凧沙）「どうしてここに？」

凧沙（光） 「よく分からないことは神頼みするしかないかなって」

光（凧沙） 「なんで入れ替わっちゃったんですかね」

凧沙（光） 「さあ。早く戻りたいよ」

○同・拝殿前（夜）

光（凧沙）・凧沙（光）、拝殿に向かって手を合わせる。

凧沙（光） 「お願いします……」

光（凧沙） 「……」

光（凧沙）・凧沙（光）、顔を見合わせる。

凧沙（光） 「……まあ戻ってないか」

光（凧沙） 「はい……」

凧沙（光） 「期待はしてなかったけど、神頼みでも無理かあ」

光（凧沙） 「……ごめんなさい！」

凧沙（光） 「え、何」

光（凧沙） 「私、身体を元に戻してください

ってお願いしませんでした」

凧沙（光） 「はあ？ え、何で？ 戻りたくないの？」

光（凧沙） 「もちろん！ 光くんは早く身体を戻してあげたいって気持ちはあるんですけど」

凧沙（光） 「じゃあなんで」

光（凧沙） 「光くん、アイドル辞めちゃうんですか？」

凧沙（光） 「……」

光（凧沙） 「元に戻ったら、光くんアイドル辞めちゃうんじゃないですか！ そう思ったら、その、戻してくださいってお願いできなくて……」

凧沙（光） 「……もともと向いてないんだよ、アイドル」

光（凧沙） 「そんなことない！ 光くんは最強ですよ！」

凧沙（光） 「顔だけ、ね」

光（凧沙） 「それは……」

凧沙（光）「あれダメこれダメって炎上する度、もったいないとか残念とか言われて。でも分かんないんだよ。アイドルとして、何をすべきなのか、何をやっちゃいけないのか、分からない。もうこんな窮屈な思い嫌なんだよ。だから」

光（凧沙）「でも、辞めないでください！光くんがアイドルでいれくれることで、どれだけの人が救われてるか」

光（凧沙）、凧沙（光）を見つめて、  
光（凧沙）「今日だって見ましたよね？ あんなにたくさんファンがいるんですよ？みんな光くんのために頑張ってきて」

凧沙（光）「だからそれが重いんだよ！」

光（凧沙）「え」

凧沙（光）「何俺のために働くとか。俺にご飯食べさせるとか、自分で食べなよ！ あんな小っちゃい子までグッズいっぱい買って。おもちゃ買ってなよ！」

光（凧沙）「あの、光くん？」

凧沙（光）「なんで人が歌って踊ってるの？  
見て泣けるの？ 赤の他人だよ？ 関係ないよね？  
関係ないのに、金貢いで時間費やして、おかしいよ！」

光（凧沙）「それが推しなんです！」

凧沙（光）「推しってなんだよ！ 同じ人間だつての！」

息が上がっている凧沙（光）。

凧沙（光）「もう……。アイドルになってから、しんどいことしかない」

光（凧沙）「……本当にそれだけですか？」

凧沙（光）、光（凧沙）を見る。

光（凧沙）「本当にアイドルになってからいいことなんて一つもなかったですか？」

凧沙（光）「あんたに何が分かるの」

光（凧沙）「今日私が見たあの景色は」

× × ×

（フラッシュ）

黄色いペンライトの光で包まれるライ

ブ会場。

× × ×

光（凧沙）「あの景色はアイドルじゃないと見れないんですよ！ 光くんを照らすペンライトの黄色は、どんな色よりもきれいでした！」

凧沙（光）、大きくため息をつく。

光（凧沙）「あんな最高の景色……。だから辞めるなんて言わないでください！」

凧沙（光）「もうそのステージにいないんだよ」

光（凧沙）「へ？」

凧沙（光）「そりゃデビューしたてのときは感動してたよ。こんなにたくさんの方が応援してくれるんだって。でももう今は、眩しくて目が痛いだけ」

光（凧沙）「そんな……。私だったら、あんな景色見たら辞めたりなんか」

凧沙（光） 「だったらあんたがやればいいだ  
ろ！」

ビクツとする光（凧沙）。

凧沙（光）、頭をかく。

凧沙（光） 「まったく、なんでこんなことに…  
…」

光（凧沙） 「…いや待って。それだ！」

凧沙（光） 「何？」

光（凧沙） 「今いるステージは、ペンライト  
が眩しく感じるんですよね？ それって、  
会場が小さくて客席と近いからじゃないで  
すか？」

凧沙（光） 「いやあのそれは比喻というか」

光（凧沙） 「もっと広いステージだったらど  
うですか？ そう！ ドームとか！」

凧沙（光） 「（鼻で笑って）ドームって」

光（凧沙） 「はい！ 光くんはまだドームの  
ステージ立ったことないですよ。そこか  
らの景色を見れば」

凧沙（光） 「知ってるでしょ。スターチューー

ンは俺が足引つ張ってるからドームなんて  
夢のまた夢——」

光（凧沙） 「だから私が連れて行きます！」

凧沙（光） 「はい？」

光（凧沙） 「私が光くんになって、最高のア  
イドルになって、この光くんの身体をド  
ームのステージに立たせます！」

凧沙（光） 「はあ？ 何、戻らない気？」

光（凧沙） 「だって戻ったら光くんアイドル  
辞めちゃうじゃないですか！」

凧沙（光） 「いやいや返してよ。俺の身体」

光（凧沙） 「最高の景色を見せてから返しま  
す！」

凧沙（光） 「無理でしょ」

光（凧沙） 「任せてください！ オタクは推  
しをドームに連れてくためなら何でもしま  
すよ！」

凧沙（光） 「……まあどっちにしろ身体が戻  
らないうちはなりきってもらうしかないの  
か」

光（凧沙）「絶対光くんがアイドル辞めたくなくなるようなステージに連れて行きますから！ 案外オタクがアイドルやった方がうまくいくかもしれないですしね！」

凧沙（光）「不安でしかないんだけど」

○同・駐車場（夜）

光（凧沙）・凧沙（光）、歩いてくる。  
バンの前でジュースを飲んでいた豊島、  
気づいて、

豊島「おかえりなさい。神社デートとは渋いですね」

光（凧沙）「デートじゃないです！ 絶対そういう関係にはならないんで！」

光（凧沙）・凧沙（光）、バンに乗り込む。

○車内（夜）

光（凧沙）「あの、これからドームに行くためになんですけど」

凧沙（光） 「はい」

光（凧沙） 「彼女とは別れてもらいます」

凧沙（光） 「はあ？　なんでそんなことまで

決められないといけないの？」

光（凧沙） 「せめてドームに行くまでは恋愛

しないでください！」

凧沙（光） 「今どきアイドルだから恋愛禁止

って？　意味分かんない」

光（凧沙） 「それがアイドルですから」

凧沙（光） 「なんか恋愛対象ではないって言

ってなかった？」

光（凧沙） 「はい。リアコじゃないです」

凧沙（光） 「だったら俺に彼女がいようと関

係なくない？」

光（凧沙）、スマホを操作し凧沙（光）

に見せる。

画面には光の自撮り写真。

凧沙（光） 「あー、これね。彼女の手入っち

やったんだよな。そりゃよく確認しなかつ

たのは悪かったけど、別に彼女いないです

って嘘ついてたわけでもないし、あんなに  
炎上しなくても」

光（凧沙） 「問題はそこじゃないです」

光（凧沙） 、スマホを操作して女の手の  
部分を拡大する。

光（凧沙） 「この女性の指輪、光くんがプレ  
ゼントしたんですか？」

凧沙（光） 「うん」

光（凧沙） 「これ八十万くらいするやつです

よね」

凧沙（光） 「あー、うん」

光（凧沙） 「千本分です」

凧沙（光） 「え？」

光（凧沙） 「今日売ってた光くんのうちわ、  
千本分です！ オタクが！ 働いて買っ

た！」

凧沙（光） 「怖いんだよな。ファンのお気持  
ち表明」

光（凧沙） 「はい？」

凧沙（光） 「別に自分で稼いだお金どう使っ

てもよくない？」

光（凧沙）「私たちはお金出して夢買ってる  
んですよ！ 指輪買ってないです！」

豊島「なんかあれっすね」

光（凧沙）「何ですか」

豊島「二人、入れ替わったみたいですね」

光（凧沙）・凧沙（光）「……そう！」

豊島「え、当たり？」

凧沙（光）「豊島くん信じてくれるの？」

豊島「だって普段の光さんと全然違うし、そ  
ちのお姉さんが光さんっぽいし」

凧沙（光）「……豊島くんー！」

凧沙（光）、豊島の肩を叩く。

豊島「危ない危ない」

○マンション・入口前（夜）

バンが入って来る。

○車内（夜）

豊島「とりあえず光さんのマンション来てよ

かったですか」

凧沙（光） 「うん。今後のこと、うちで話し合おう」

凧沙（光）、光（凧沙）を見ると、手で目を覆っている光（凧沙）。

凧沙（光） 「何やってんの」

光（凧沙） 「いやだって光くんのおうちなんてオタクが場所知っていいところじゃないですよ！」

凧沙（光） 「そんなん言ってるんじゃないでしょ」

豊島 「先降りちやってください」

凧沙（光） 「ありがとう」

凧沙（光）、車から降りる。

光（凧沙）、手で目を覆ったまま降りようとする。

光（凧沙） 「ここ？ ここ段差ありますか？」

凧沙（光）、ため息をつく。

○マンション・入口前（夜）

凧沙（光）、目を隠したままの光（凧

沙）をバンから降ろす。

豊島「じゃ、停めてきますね」

凧沙（光）「うん」

走って行くバン。

凧沙（光）「どうせこれから来る機会多いだ  
ろうし、別に」

光（凧沙）「そんなわけじゃないですよ！」  
手で目を覆ったままの光を見つめる凧

沙（光）。

光（凧沙）「光くん！ います？」

凧沙（光）、光（凧沙）の頬に手を添  
えて顔を近づける。

その様子が映っているスマホカメラの  
画面。

【続】